

林檎停通信

NO.149 2015.4.25

長野県北安曇郡松川村 3402-4 町田 登・幸子

庭先のソメイヨシノの花が咲き始めた寒い朝、私はいつものようにビニールハウスの中のポットと老犬の様子を見ていた。行っ行ってらっしゃいという声が聞こえた。黄色のカバーを付けたランドセルを背負った孫のもみじが歩いて行くのが見えた。そうか今日からひとり歩きなのか。母さんの見送る姿に何度となく振り返って手をふっていた。ランドセルが大きくみえる小さな娘だが、いつのまにか一年生になったのかと爺さんは溜息をついた。そしてその娘の姿が遠い昔の自分たちの子供の姿と重なってしばし思いにふけた。

あの頃、私たちはまだ山林原野の開墾をしていた。娘が一年生になるからと、スタートはこの松川からさせてやろうと大町の県営住宅を引き払った。昼間は畑作りで夜は工場へ。カミさんもずっとベルトコンベアの前の労働者だった。その日暮らしの私たちの稼ぎではまともな家など建てられるはずもなかったが早くこの地に落ち着いたかったのである。見様見真似と30代前半の勢いで掘立小屋を建てた。国鉄から買い求めた枕木を主材料として、すべて古材で仕上げた。ひとり棟梁の10日間で工費11万円なんとか形になった。電気は中部電力にお願いして近くに家がないから電柱を何本か必要とした。水道工事は100万円以上かかると説明があったので300メートル程を自分で掘って埋めた。12月31日の夕方水が出た。パイプを接いでくれた人たちとおもわず万歳。このときはほんとうに涙があふれ出た。レンガで築いた暖炉の火がパチパチと燃える前での乾杯は北の国からのようなスタートでした。

昭和も終りそうなあのときの春は4月の中旬まで雪が残っていた。暖炉に火を灯さなければグラスに注いだワインがたちまちゼリー状になるという透き間だらけの家だったが、そのおかげか二人の子供は病気知らずに育った。ささやかな私たちの小さな歴史のひとつまではあるが、今、娘を見送っている母さんの姿を見ると、おばあさんになった幸子さんと同じだなあと安堵した。

3月に入ってから、また今年もりんごの種を播いた。1000ポットぐらいにしたが、このうち半分ぐらい芽が出ればいいだろうといういいかげんさはある。試験場じゃあるまいしそんなバカなことをやっているなあという冷たい視線も確かにある。去年は外に柵を作ってポットを並べたが乾燥させ過ぎて失敗した。今年はビニールハウスの中で水やりをこまめにしている。さあ、君たちのスタートだ。この中から病気に強いものが必ず現われるはずだ。意気込みはいいが結果が出るのは10年も先のこともかもしれない。自分の年齢を考えるとそろそろ仕上げの段階であるべきなのにと周囲をみる。幼き頃からの友人で安保斗争で国会議事堂までデモを共にした彼がタイ国で死んだと知らせを受けた。生き方の不器用な男だった。飲み屋に行ってもレーニンを読んでいたバカな男だった。私もひょっとして後々誰かにそういわれるかもしれないから、そろそろそろそろと考える。

4月に入って保健所と村役場の人から犬の税金を払いなさいとやってきた。我が家には13匹の犬がいる。りんご園の周囲に金網を張りめぐらしたから熊はなんとか寄せつけないようになったが、猿に関してはその力も及ばない。かつての霊長研の和田さんが、ここは猿にとって天国ですよとのたまわれた。そうでしょうねとずっと犬の世話になっている。その防御の先頭に立っていたのが6月6日で17才になるエルマ(トルコ語でりんご)だ。8匹の子をなした彼は、今ではその勇姿の影もなく、この冬にはあぶないのではないかとビニールハウスの中ですごさせた。すべての機能が落ちた100才の老人に、おいエルマと声をかけることもためらいがちになったが、これまでありがとうという私の思いが伝われば嬉しいのだが。

やってきた役人は世間にある犬屋敷だと思ったかもしれない。ところが曲がりなりにも一戸建てにそれぞれ住んでいることを確認したら、飼育の仕方は問題ないですよと仰せられた。私たちの犬はペットとは違うのですよ。それからですねと口に出そうとしたがやめた。法は全ての人に平等なんだという答えが予測できたからです。オペラ座の怪人のような顔をしたビッキーも、ヒステリックな酒場の女バルも素直に注射に応じた。犬税10万円プラスされて、年間の食事代15万円、そして猿へのプレゼント約10万円分。常日頃、おおらかな私も沈みきった一日であった。

住んでから8年目で違法建築物として摘発された枕木の家、そして今回と前科二犯となってしまう。政治犯なら転向もきくだろうが経済犯じゃそれも今さらながらできない。せめてもと支払いはカミさんの涙で分割にさせていただいた。

私の母親が亡くなって5月で1年になる。家制度の犠牲でもあった。殺りくの果てにできあがった権力者の写真が昔から仏間にあったが、無知なるゆえそんな影に生かされていた一生だったと、どこかでできっと悔いているだろう。経済だけを追求していれば成り上がりも成り下がりも当然ある。傾いた精神を悼むためにこれも型通りになるかもしれないが、ささやかな一周忌を迎えるつもりだ。

りんごの花がもうじき咲きそうです。マメコバチも動き始めました。愛しきは自然の流れと毎年この時期になると希望めいた錯覚を起こすのですが、秋までの期間なんとか自分に鞭打ってゴールインしたいと思っております。

歯がなくなって固いりんごはもう食べられませんという人は私たちのお客様の中にはまだいらっしゃると思いますが、そんな方にはりんごジュースというものがあります。

そんな甘いジュースを飲めるかとおっしゃる殿方にはカクテルがいいですよ。私もたまにウイスキーや焼酎でやっていますよ。

テレビショッピングのコマーシャルみたいなことを書きましたが、家の財務省が倉庫のジュースがなかなか減らないと申しておりますのでしつこくもお知らせする次第です。

りんごのことをもっと知りたい方、安曇野へ行ってみたいという方、どうぞ、遠慮なくあそびに来て下さい。お待ちしております。

林檎停のジュース

「志乃果」 1000ml 890円(税込)



Shinokuni
No.4091 15-66 5/8